

チーム：C1

課題挑戦型インターンシップ

～学校施設のバリアフリー化向上の施策～

Click to add text

・ 佐藤佑亮 ・ 佐々木駿斗 ・ 欠端太陽 ・ 福島陽斗 ・ 高橋陽太

目次

- ・ 課題提供機関からの課題
- 学校施設のバリアフリー化の現状
- 提案
- 説明
- まとめ

課題

「学校施設のバリアフリー化と多様性の実現」

課題提供機関
酒田市役所様

バリアフリーとは

「高齢者や障害者が社会生活を送るうえで、障壁となるものを取り除く考え方」

高齢者や障害者だけではなく、全ての人にとって日常生活の中で存在するあらゆる障壁を除去することを意味します。

バリアフリー社会の実現は、高齢者や障害者だけでなく、病気やケガをしている人などにとっても、安全で安心して生活していく上で重要な問題である。

学校にバリアフリーが必要な事例

- ▶ 足元に物、段差があると転倒する可能性
- ▶ 複数階の移動が困難
- ▶ トイレを利用するのが困難

学校施設のバリアフリー化の現状

スロープの設置

酒田市立第二中学校のスロープ



学校校務員作成のスロープを設置



春や夏暖かい期間は使用できるが冬の時期は積雪もあり危険な為このような手作りの簡易スロープを使用する。用務員さんの手作りで工夫した所は倒れない、崩れないことを重視して作られています。加えてタイヤの幅に合わせて止めを付けるという点も工夫されている。

手作りスロープの特長

手作りスロープの特長

- ・費用がかからない。（木材のため2～3万円から製作可能）
- ・即効性に優れている。
- ・持ち運びが可能。
- ・作成期間があまりかからない。（1～1ヶ月半程で完成する。）

手作りスロープの難点

- ・ 木材のため腐敗してしまう可能性がある。
- ・ かなり重い。（安全性を考慮して木材を沢山組んでいるためかなり重く作られている。）大人3～4人程必要。
- ・ 割と大きく作られている為場所をとる。
- ・ 階段より長く設置する必要がある為狭い所だと設置できない恐れがある。

スロープ設置の必要性



スロープがないことによって、
車いすの人々等が段差を乗り越えるのが困難

段差が残っている学校



車いすの生徒への
負担が予測される。

心のバリアフリーを実践

別室登校による、心理的な支援を
実践している。
また、主に外国人児童の言語・
文化の違いによる問題等への支
援が、制度に加えて心理的な側
面からも、今後必要になる可能
性が考えられる。



多様性の実現

多様性とは。

幅広い性質の異なる群が存在することである。

この課題での多様性は健常者が障がい者の苦勞を知る機会がある事が多様性の実現に近づく物だと考えた。また、多様性の理解を深め共生社会の実現に近づくのではないかと考えた。

下のスライドからは多様性の実現に向けて私達が考えたイベントの説明です。

イベント名

手作りSLOPE作り方公表！ &
バリアフリー機器体験フェス

イベントの説明

- ・ 手作りのスロープをお造りになった酒田第二中学校の校務員様をお招きして酒田市内の小中高学校の先生や校務員さん、加えて**市民や地域の住民の皆様**に対して手作りスロープの利点や作るうえで注意したこと等を教えてもらいながら学び合うイベントです！！実際に作った人だからこそその苦勞などを語って頂きます！
- ・ そして実際に酒田第二中の校務員さんが作られた手作りスロープを使って車椅子を市民の方々などに動かしてもらいながら安全性が高いことや実際に車椅子体験をして頂きます。

どのように人を集めるか？？？

- ・チラシやポスターなどパソコンや携帯などのソフトなどで制作するので費用はかからずに制作することが出来ます。そして制作したポスター、チラシを各学校やスーパーなどのお店に掲示して頂いて地域の方々に宣伝する。
- ・SNSアカウントなどを作り利用することで学生から情報が回り良い宣伝になると思います。

このイベントのメリット

- ・ バリアフリーが進んでいる酒田第二中学校の様子なども聴くことが可能な為今後沢山の学校にヒントを与える事が出来る。
- ・ 手作りスロープ以外にも例えばドアのレールの溝を浅くする（低コスト）ことで車椅子の生徒が通りやすく作られているなど他の学校も真似できる情報の交換も可能。
- ・ 地域の方々に参加して体験して頂く事により障がい者の苦勞を知る機会になり今後の多様性の実現に向けて良い機会になる。

このイベントのメリット

- ・実際に手作りしてみたうえで困ったことや苦勞した点などを共有することによって今後手作りスロープを導入しようと考えている学校が対策することができる。
- ・低コストで手作りスロープを作れる事を知る機会ができる。
- ・質疑応答できるのでわからない点や工夫をした点を聞くことによって自分たちが作る時のヒントを得ることが出来る。
- ・交流の場を作る事で手作りスロープ以外にも手作りのバリアフリー機器を制作する機会にもなると考える。

まとめ

費用を抑えながら、改善できる箇所からバリアフリー化に取り組んでいくことが大切であると考えました。

施設整備のバリアフリー化だけではなく、すべての学校関係者が快適な学校生活を過ごせるように、心のバリアフリーにも力を入れて取り組む必要があると考えました。

私たちの提案のように、多くの方々にバリアフリー化の現状を認識する機会を設置することも、必要になると考えました。